

神籠石（こうごいし）とは

神籠石とは丘陵斜面に2～4 kmにわたり切石を廻らした古代の遺跡です。北部九州から瀬戸内海沿岸に16箇所が確認されています。久留米市の高良山（こうらさん）の列石がそのように呼ばれたことから名付けられました。列石は神域を石で囲んだとする説もありましたが、列石の上に版築（はんちく）とよばれる方法で土を水平に積み上げて土塁（どるい）（城壁）としていたことが発掘調査で確認され、山城とする説が一般的です。

いつ何のために

神籠石は文献に記録が残されていませんが、発掘調査の結果7世紀頃に築かれたと考えられています。当時日本は百済（くだら）救済のために朝鮮半島へ出兵し、唐（とう）・新羅（しらぎ）連合軍と663年に朝鮮半島南西部の白村江（はくすきのえ）で戦って敗退しました。そのため唐・新羅軍の侵攻に備え、水城や大野城などの山城を築きました。神籠石もこの頃国土防衛のために築かれたと考えられます。



土塁断面



水門出土須恵器（7世紀頃）

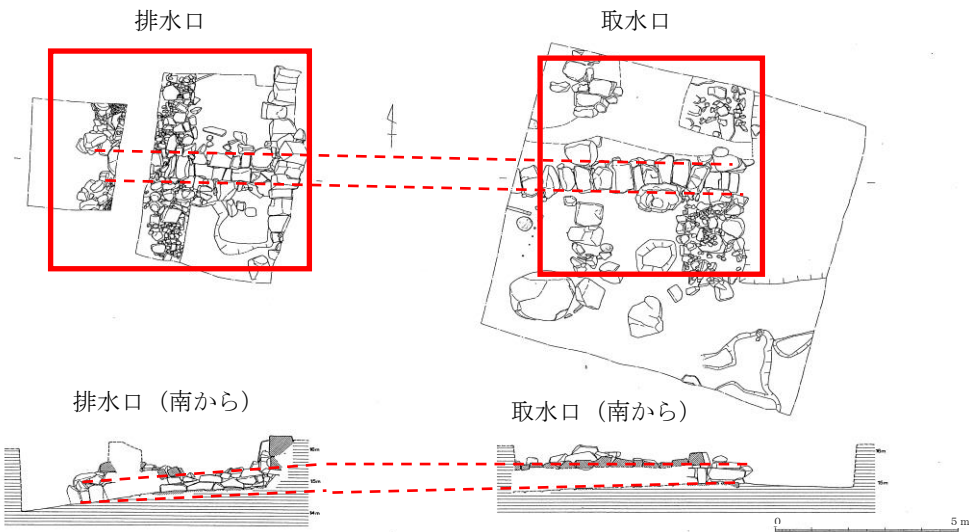


列石



第1暗渠排水口

第1暗渠取水口



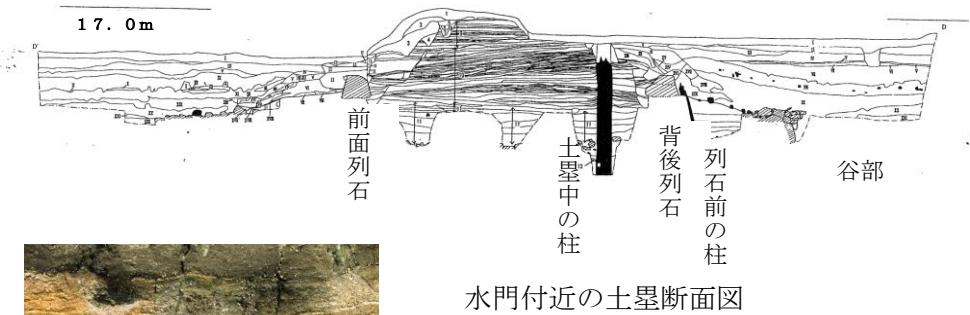
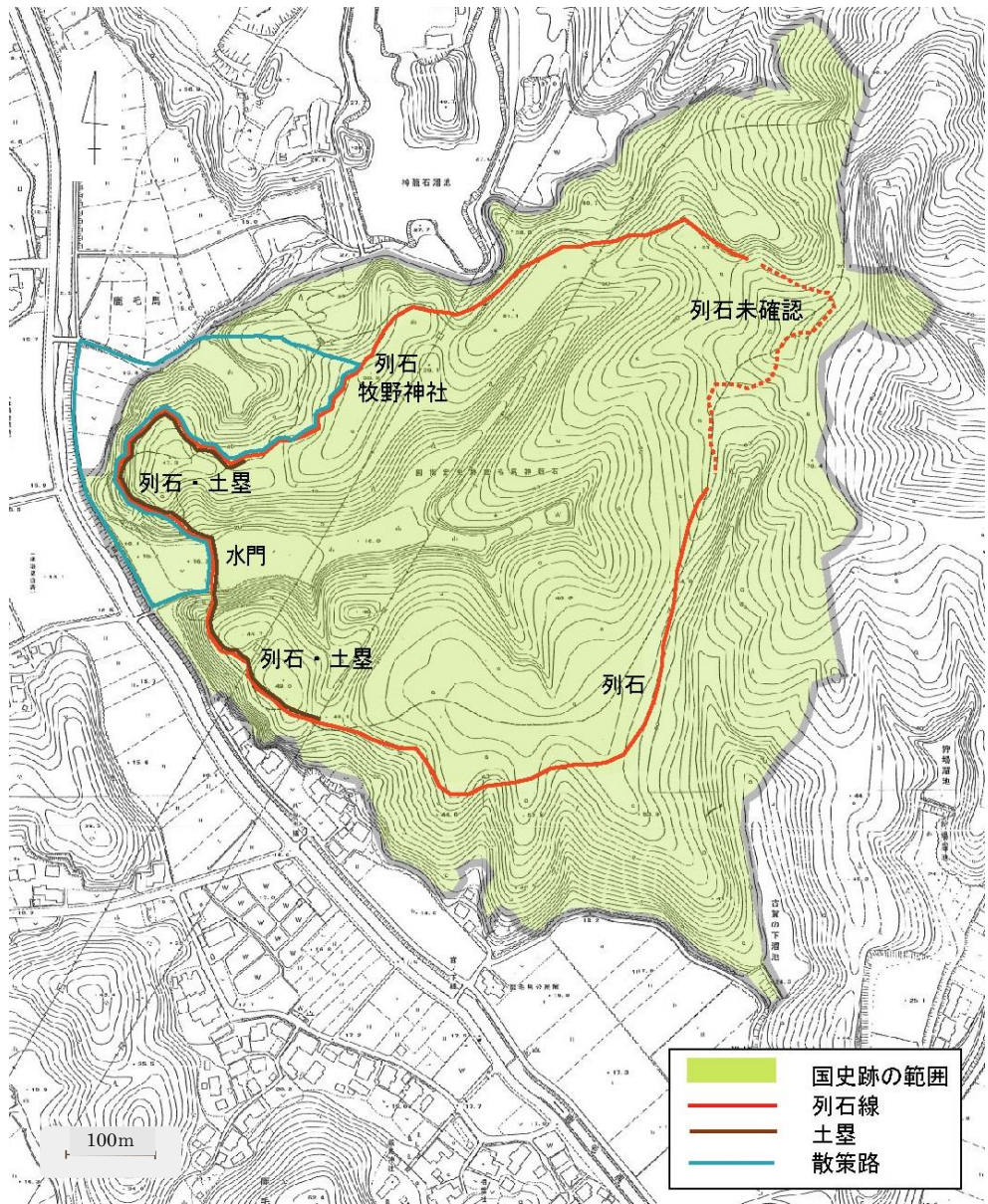
第1暗渠実測図



水門土塁断面



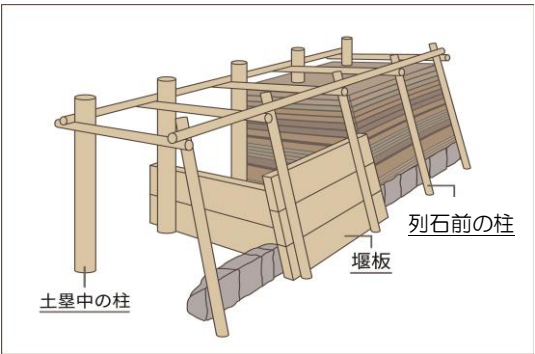
列石前の柱と堰（せき）板



水門付近の土塁断面図



土塁中の柱



版築模式図

鹿毛馬神籠石の特徴

鹿毛馬神籠石は遠賀川支流鹿毛馬川東岸の標高約76mの馬蹄形をした丘陵に約2kmほど列石が並んでいます。また、西側の鹿毛馬川に面した丘陵斜面には、列石上に約500mにわたる版築（はんちく）工法による高さ3～5mの土塁が築かれています。谷の入口には長さ約60m、幅9mの土塁が築かれ、土塁の下に排水のための暗渠（地下水路）が2カ所（水門）築かれています。しかし、城門や建物跡などは見つかっていません。

また、江戸時代前期に編纂された『筑前国続風土記』（貝原益軒）に記述があり、馬の牧場（まきば）といい伝えられてきました。



鹿毛馬神籠石の推定復元図



飯塚市歴史資料館では鹿毛馬神籠石関係の資料を紹介しています。



交通案内

- ・JR 福北ゆたか線小竹駅から車で10分
- ・西鉄バス・勢田バス停から徒歩20分
- ・西鉄バス・筑豊緑地公園から徒歩40分

お問い合わせ

飯塚市教育委員会文化課（飯塚市歴史資料館）
〒820-0011 福岡県飯塚市柏の森959番1
TEL0948-25-2930
FAX0948-25-2930
bunka@iizuka.lg.jp

国指定史跡
鹿毛馬神籠石
かけのうまこうごいし



鹿毛馬神籠石 遠景（西上空より）

鹿毛馬神籠石の概要

指定種別	史跡
指定面積	358,238.68㎡
所在地	福岡県飯塚市鹿毛馬997-1ほか
指定年月日	昭和20年（1945）2月22日 平成14年（2002）3月19日

飯塚市教育委員会